



多国籍美術展・「わたしたちはみえている - 日本に暮らす海外ルーツの人びと - 」
企画の詳細内容決定！



東京都足立区を拠点に、音をテーマにしたアートプロジェクトを展開する「アートアクセスあだち 音まち千住の縁」。そのプログラムの1つ、「イミグレーション・ミュージアム・東京（以下、「IMM 東京）」は、アートを通じて、日本に暮らす海外ルーツの人びとと出会うきっかけをつくってきました。また、ミュージアムと謳いながら特定の拠点を持つことなく、「移民」のように足立区のいたる所を転々としながら活動しています。

2021年12月、約10年間の活動の集大成として、**多文化社会をテーマにした多国籍美術展・「わたしたちはみえている - 日本に暮らす海外ルーツの人びと - 」**を開催します。母国を離れ日本の地で暮らす彼/彼女らは、日々の生活の中でどのように他国の文化に「適応」し、その中で自らの文化を「保持」し、さらには「融合」しているのでしょうか。展覧会では、IMM 東京が掲げる「適応」、「保持」、「融合」というキーワードを、ホスト&ゲストアーティストたちによる「作品展」、海外ルーツを持つ表現者たちによる「公募展」、多文化社会に取り組む団体の「活動紹介展」という3つのアプローチで紐解きます。

開催概要 【入場料無料】

[日時] 令和3(2021)年12月11日(土)～26日(日) 13時～19時

[場所] 北千住 BUoY (足立区千住仲町49-11)、仲町の家(足立区千住仲町29-1)

※北千住 BUoY：火曜休み 仲町の家：火～木曜休み



特設 WEB サイト

- ※ 会場が混雑した場合、入場制限をする可能性がございます。展覧会の最新情報は特設 WEB サイトをご覧ください。
- ※ 会期中は関連イベントも開催予定です。イベント詳細は特設 WEB サイトにて随時発表いたします。
- ※ 新型コロナウイルス感染症の状況等により、プログラム内容は変更になる場合がございます。

主催：東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京、

東京藝術大学音楽学部・大学院国際芸術創造研究科、特定非営利活動法人音まち計画、足立区

助成：公益財団法人 朝日新聞文化財団、公益財団法人 花王 芸術・科学財団、公益財団法人 福武財団、

東京藝大「I LOVE YOU」プロジェクト



公益財団法人 花王 芸術・科学財団

公益財団法人 福武財団





音まち千住の縁

■ ディレクターズ・ステートメント：岩井成昭（美術家、イミグレーション・ミュージアム・東京 主宰）

東京で開催されたオリンピック・パラリンピック終了後も、COVID-19 に行動を限定される生活が続いています。同様に、国内に 280 万人以上存在する在留外国人の生活にも、私たち以上に大きな負荷がかかっています。オリンピックは彼ら/彼女らの生活に想いを馳せる機会にはなりません。しかし、私たちが彼らを想うイマジネーションが失われたわけではありません。この時代にこそ彼らに関心を向けること、そして彼らからの発信を紹介することが、イミグレーション・ミュージアム・東京（IMM 東京）にできることだと思います。

IMM 東京は昨年 2020 年に活動 10 周年を迎え「美術館・わたしたちはみえている — 日本に暮らす海外ルーツの人びと」という展覧会を開催予定でしたが、結果的にオンライン公開になりました。本展は昨年度の内容に追考と編集を進めた、満を持しての現地開催での展覧会となります。

■ 展覧会構成

■ 1. ホスト&ゲストアーティストによる「作品展」

現代日本における「移住と移民・多文化社会」をアーティストたちはどのように見つめ、作品を制作しているのでしょうか。IMM 東京主宰の岩井成昭が、岩根愛、高山明、李晶玉の 3 名のゲストアーティストを招き、それらのアプローチを紐解きます。

◆出展作家（順不同）：岩根愛、高山明、李晶玉、岩井成昭



李晶玉《Olympia 2020》(2019)

■ 2. 海外ルーツを持つ表現者たちによる「公募展」

2020 年度、国内に暮らす海外ルーツを持つ人びとの作品をプロ・アマ問わず公募し、約 100 点以上の作品が集まりました。そのなかから、日々の生活の中でつくられた手芸品や、普段の暮らしを映したスナップ写真、自国文化と日本文化を混ぜ合わせた芸術表現など、日常の感性や思考が垣間見える約 30 点の作品を展示します。



Cedric Rolando - Neoyume
《#東京の決まり文句-1:14 銭湯》(2020)

■ 3. 多文化社会に取り組む団体の「活動紹介展」

国内には多文化社会の在りようを探るさまざまな団体が活動しています。なかには、その活動にアートを積極的に取り込んでいる事例もあります。それぞれの願う風景を映し出そうと活動を続ける団体をアーティストユニット L PACK. による空間デザインのもと紹介します。

◆参加団体（14 団体、50 音順）

一般社団法人 kuriya / イミグラジオ〜アーツ前橋多文化放送局〜 / カナガワビエンナーレ国際児童画展 / 公益財団法人可児市文化芸術振興財団 / 公益財団法人国際文化フォーラム / THE アート・プロジェクト多文化読み聞かせ隊 / 東京外国語大学 多言語多文化共生センター / 東京で（国）境をこえる / 特定非営利活動法人アディアババ・エチオピア協会 / 特定非営利活動法人多文化共生リソースセンター東海 / 特定非営利活動法人ダンスボックス / マルパ (MULPA) / みえ市民活動ボランティアセンター / 武蔵野美術大学・カシオ計算機株式会社

◆空間デザイン：L PACK.

■ 4. 市民リサーチャー・IMM ねいばーずによる「リサーチ成果展」

IMM 東京では、市民リサーチャー「IMM ねいばーず」を公募し、多文化社会に関心のある学生や社会人、アーティスト活動をしている留学生など、多様な背景を持った多世代のメンバーと活動を行っています。定期的に集い、議論やフィールドワークを通じて多文化社会について考えてきた成果として、本展では、私たちの身の回りで複雑に絡み合う「滲み出る多文化」と「食」をテーマに展示を行います。





アーティスト・プロフィール



岩根愛 | Ai Iwane (「作品展」ゲストアーティスト)

1975年東京都生まれ。1991年単身渡米、ペトリリアハイスクールに留学。帰国後、1996年に独立。2006年以降ハワイにおける日系文化に注視し、移民を通じたハワイと福島の間わりをテーマに制作を続ける。2018年、初の作品集『KIPUKA』（青幻舎）を上梓。第44回木村伊兵衛写真賞、第44回伊奈信男賞受賞。ドキュメンタリー映画『盆唄』（中江裕司監督作品、2018年テレコムスタッフ）を企画、アソシエイト・プロデューサーを務める。2020年春の東北の桜を撮影した最新作『あたらしい川』を「あしたのひかり-日本の新進作家 Vol.17」（東京都写真美術館）に出展、同時に作品集『A NEW RIVER』（bookshop M）刊行。2021年、第37回写真の町東川賞新人作家賞受賞。著作に『キブカへの旅』（太田出版）『ハワイ島のボンダンス』（福音館書店）。



高山明 | Akira Takayama (「作品展」ゲストアーティスト)

1969年生まれ。アーティスト・演出家。2002年、演劇ユニット PortB（ポルト・ビー）を結成。既存の演劇の枠組を超え、実際の都市を使ったインスタレーション、ツアー・パフォーマンス、社会実験プロジェクトなど、現実の都市や社会に介入する活動を世界各地で展開している。近年では、美術、文学、観光、建築、教育といった異分野とのコラボレーションに活動の領域を拡げ、演劇的発想を観光や都市プロジェクト、教育事業やメディア開発などに応用する取り組みを行っている。http://portb.net/

Photo: 奥祐司



李晶玉 | Jong Ok Ri (「作品展」ゲストアーティスト)

在日朝鮮人3世という立場から、国家や民族に対する横断的な視点を足がかりに制作を展開している。古典絵画の構図や象徴的なモチーフを借用し、マジョリティの文脈や構造にアプローチをかける試みを行っている。



L PACK. | エルパック (「活動展」空間デザイン)

小田桐奨と中嶋哲矢によるユニット。共に1984年生まれ、静岡文化芸術大学空間造形学科卒。アート、デザイン、建築、民藝などの思考や技術を横断しながら、最小限の道具と現地の素材を臨機応変に組み合わせた「コーヒーのある風景」をきっかけに、まちの要素の一部となることを目指す。2007年より活動スタート。主な活動に廃旅館をまちのシンボルにコンバージョンする「竜宮美術旅館」（横浜/2010-2012）や、室内の公共空間を公園に変えるプロジェクト「L AND PARK」（東京/2011-2012）ほか。



岩井成昭 | Shigeaki Iwai (イミグレーション・ミュージアム・東京 主宰)

国内外の特定地域における環境やコミュニティの調査をもとに多様なメディアで作品を制作し、国際展やAIRを中心に発表。1990年代から多文化状況をテーマに、欧州、豪州、東南アジアにおける調査を進める。2010年からはプロジェクトベースの「イミグレーション・ミュージアム・東京」を主宰。その一方で拠点を秋田に置き、秋田公立美術大学大学院複合芸術研究科の新設に参加したほか「辺境芸術」を標榜するなど様々な活動を並行して進めている。秋田公立美術大学教授、東京藝術大学非常勤講師。



音まち千住の縁

会場

本展は、アートセンター「北千住 BUoY」（きたせんじゅブイ）全館と文化サロン「仲町の家」（なかちょうのいえ）を会場に、アーティストや活動団体、市民といったさまざまな表現者や実践者との協働を通じて、今日の日本の内なる国際化を多角的に紹介します。



北千住 BUoY

2階は元ボウリング場、地下は元銭湯という歴史を持つ廃墟を改装し、2017年10月にアートセンターとしてオープン。2階にはBUoYカフェ、美術の展示を行うギャラリーや稽古場スペースがあり、地下は主に演劇やダンスの公演を行う300㎡の空間があります。演劇、ダンス、詩、建築、食、映像、現代美術といった多様なジャンルのコラボレーションにより「異なる価値観との出会いを創造する」をテーマに先鋭的なアートを紹介しています。

◀ 銭湯の名残がある地下スペース



仲町の家

千住仲町エリアにある戦前に建てられた美しい日本家屋と、緑あふれる庭が広がる情緒深い空間です。まちなかアートプロジェクト「アートアクセスあだち 音まち千住の縁」が文化サロンとして運営しています。さまざまな団体に活用されることで、多様な人びとが集い、芸術と出会い、交流する地域の文化拠点形成をめざします。

イミグレーション・ミュージアム・東京（IMM 東京）とは

地域に居住する外国人と市民が現代アートの手法を用いて交流し、そのコミュニケーションの蓄積を作品としてアーカイブ化しながら、ミュージアムをつくることをめざす取り組みです。美術家の岩井成昭が中心となり、独自のコンセプトで活動を続けています。

アートアクセスあだち 音まち千住の縁（通称「音まち」）とは

アートを通じた新たなコミュニケーション（縁）を生み出すことをめざす市民参加型のアートプロジェクトです。足立区千住地域を中心に、市民とアーティストが協働して、「音」をテーマにしたさまざまなまちなかプログラムを展開しています。日本家屋「仲町の家」も文化サロンとしてオープン中！

※本事業はアーツカウンシル東京の「東京アートポイント計画」として実施しています。

お問い合わせ先 | アートアクセスあだち 音まち千住の縁 事務局

MAIL : info@aaa-senju.com WEB : <https://aaa-senju.com> 担当 : 韓 [aaa.senju@gmail.com]